

日刊 動労千葉

85. 5. 17

No. 1940

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）公衆〇四七二（22）七二〇七

北富士 管理小屋撤去 許すな

（東富士軍用 道路建設強行） 甲府地裁の「明け渡し」決定を弾劾し、母の会決死のろう城へ

忍草入会組合と忍草母の会は、侵略戦争にむけた東富士軍用道路建設を武力で粉碎するため、管理小屋を建てた松丸尾の赤松林実力防衛の闘いに決起している。これに対し、甲府地裁は、五月十三日、山梨県から出されていた「管理小屋撤去と土地明け渡し、立ち木伐採妨害排除」を求めた仮処分申請を認める決定を下した。われわれは、甲府地裁の暴挙を弾劾するとともに、山梨県当局による機動隊の暴力を使った松丸尾破壊軍用道路建設強行を断じて許してはならない。

松丸尾防衛の緊急集会開かる（5/12）

これに先立つ五月十二日、松丸尾において「軍用道路粉碎・松丸尾を守れ」の現地集会在開かれ、忍草の農民をはじめ、三里塚芝山連合空港反対同盟、動労千葉、労働者、学生一七〇名が参加して開かれた。

動労千葉を代表して、水野副委員長は「国鉄労働運動は三里塚、北富士の闘う部隊と合流して闘いを挑むことなしに、今日の国鉄攻撃を打ち破る



軍用道路をぶった切って立ち方は分かる皆
=母の会、松丸尾管理小屋。

ことはできない。動労千葉は、三里塚・国鉄決戦の過程で、すべての労働運動を指導できる質を創りあげる」と決意表明した。

集会は、富士を朝鮮・中東につなげず、人民の手にとり戻すために、断固として松丸尾の決戦を闘いぬくことを宣言し、道路建設予定地周辺の抗議デモを貫徹した。

（5月14日記）



決意表明に立つ動労千葉・水野副委員長。（5月12日）

いま全国の動労職場で何が起こっているのか？

ある日の、動労（東京地本） 新鶴見支部組合員の話

No.2

東京・武蔵野操車場（武操）は、東京の機関士のほかにも千葉や水戸など近隣の局の機関士仲間が乗り入れ、当然にも各地の様々な職場の話題が詰所で飛び交うことになる。

四月の下旬のある日、武操の乗務員詰所では、動労東京地本新鶴見支部のある年輩の組合員の話を中心に、こんなことがもろもろに話されていた。

① 動労新鶴見支部から出向に応じた二名の組合員が過酷な勤務に耐えきれ

ず、支部役員に「もとの職場に戻りたい」と訴えたところ拒否された。そこで二人は「それなら国鉄を辞める」というと、未払いの組合費を請求され、拒否したら「除名」となった。

② 四月以降、下職指定された55才以上の乗務員は便所掃除までやらされ、「涙がでてしまう」「国労の方がましだ」とこぼしている。

③ 組合員が「交番がきつい」と支部役員に訴えたら「いやなら乗らなく

てもいい。乗る人はたくさんいるんだ」といわれた。

組合員の苦悩や要望に耳を傾けようとすらない「組合」とは……。当局や政府・自民党・監理委の顔ばかり上目づかいで拜いで「クリアー運動」のみ全精力をそそぎこむ「組合」が行きつく先を暗示しているような光景がそこに有りはしまいか。

「クリアー運動」への疑問を口にすることでさえ、そこでは即「組織不信をまきちらす反組織分子」のレッテルがまらうけ、「仕事がきつい。いやだ」という「おちこぼれ」には、差別待遇や統制処分がまわっているという……。この時節、なんとも背筋の寒々とした話しではある。（以下、つづく）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！